「平和と人権」市民ネットワーク情報 No.22-12 （通算 91 号）
事務局発行（TEL 0557-45-1182） http://peaceito.moo.jp 2022.12/1

2022 年度の活動を振りかえって

【Ⅰ】主な活動

(1) イベント・学習会・諸活動

1 月 16 日（日）…「ネットワーク」と「アクション」の総会＆「署名キックオフ集会」を開く。
3 月 14 日（月）…駐日ロシア大使宛に、「ウクライナ軍事侵略」に対する抗議書を送る。
3 月 19 日（土）…新婦人の会と協力して、湯ノ花・伊東駅前で、ウクライナ支援のキャンペーン活動を実施する。

※3 月下旬～４月上旬、憲法共同センター発行の憲法パンフ 2,000 枚を市内全域にポスティングする。
5 月　3 日（日）…松川公園で憲法集会を行い、市内パレードを行う。
6 月　17 日（金）…川奈駅前で高校生に憲法パンフと宣伝文入りハンドティッシュを配る。
6 月 19 日（日）…スタンディング後、観光会館会議室で「小沢隆一講演」のビデオを視聴する。
※7 月 10 日（日）…参議院選、投票日
9 月 17 日（土）…ひぐらし会館で「テレビで会えない芸人」上映会を開く。
9 月 23 日（金）…松川公園で「安倍国葬反対」集会を実施する。

(2) 定例の活動

①毎月 19 日、観光会館前でスタンディング・アピールを行なった。
（7 月 19 日雨天のため中止、9 月 19 日は国葬反対集会に切り替える）
②毎月機関誌「情報＆通信」を発行した。
（4 月 21 日に号外発行、11 月号は休刊とした）
③ホームページ「『平和と人権』市民フォーラム」を更新する。
（11 月 23 日現在 108 本登載）

(3) 他団体との共同活動

平和委員会、原水禁、新婦人の会とジョイントして街頭署名活動に取り組んだ。

・2 月 6 日　湯ノ花　・2 月 21 日 伊豆高原ナガヤ前　・3 月 6 日　湯ノ花
・3 月 29 日 伊豆高原桜並木　・4 月 6 日　湯ノ花　・5 月 6 日　湯ノ花
・6 月 13 日 キネマ、湯ノ花　・7 月 6 日　湯ノ花　・9 月 6 日　湯ノ花

【Ⅱ】活動を振りかえって

(1)7 月の参議院選に向けた取り組み

1 月 16 日の総会のとき、今年度の方針として**憲法擁護の訴えを参議院選と連動させて**取り組むことを提起しました。言うまでもなく、参議院で改憲政党が 2/3 以上の議席を占めるのを阻止するためです。具体的な行動としては、「憲法改悪を許さない全国署名」を取りながら、同時に参議院選向けのチラシやポケットティシュを渡し、護憲政党への支持を訴えました。二つ目に、平和委員会等の他団体と共同して、都合 8 回街頭署名に取り組み、一般市民に見える形で「9 条変えるな!」と訴えました。公示期間に入ってからは、有志としてですが、法定ビラの配布や電話がけ等の活動に従事しました。

振りかえってみると、憲法擁護と国政選挙を連動させた取り組みをしっかり行うことができましたが、**活動する人が限られていたこと**、また**地域が主体となった取り組みが弱かった**こと、が課題として挙げられます。

(2)安倍国葬反対運動

参議院選投票日の二日前、安倍晋三元首相が遊説中に銃撃され死亡しました。岸田首相は時を置かず国葬にする意向を表明。しかし、銃撃犯の殺害動機が旧統一教会への恨みにあったことが明らかになると、焦点は旧統一教会と自民党との深いつながりに移り、安倍国葬に反対する世論が高まりました。私たちは葬儀前の 9/19 に国葬反対の集会とデモを行うことにしました。しかし、１９日はあいにくの雨で中止し、急遽２３日に抗議集会のみを実施しました。小雨の中、40 名もの人たちが松川公園に集まりました。しかし、届けがないことを理由に伊東警察は集会を認めず、マイクを使わない「静かな集まり」とすることで妥協しました。届けの提出は日程的に不可能でしたが、そのために参加者に不都合を強いたことをお詫びします。

(3)「テレビで会えない芸人」上映会

9 月 17 日にひぐらし会館で「テレビで会えない芸人」上映会を開きました。2020 年 5 月に「主戦場」上映会をコロナのため断念して以来、ようやく映画会を開くことが出来ました。市内のコロナ感染者は減少傾向でしたが、感染対策に気を使いながら準備しました。当日 90 名の方が来場し赤字を出さず挙行できました。志を同じくする人たちが一堂に会し、連帯感を共有できる場を持てたのは何より嬉しい事でした。また、当日多額の会場カンパを賜り感謝、感謝です。

(4)ロシアのウクライナ侵略と日本

２月２４日、ロシア軍が隣国ウクライナに軍事侵攻しました。独立国家の主権を侵害する暴挙です。私たちは直ちに駐日ロシア大使宛に抗議文を送り、3 月 19 日にウクライナ支援の街頭キャンペーンを行いました。しかし、9 カ月たった今も停戦の兆しはありません。双方の兵士の犠牲とウクライナ国民の悲劇は増すばかりです。戦争の影響はわが国にも及んでいます。他国による軍事的脅威が現実感を持って語られ、自衛力の強化が与野党を問わず主張されるに至りました。対中国を念頭に日米同盟のさらなる強化と、その一環として自衛隊の敵基地攻撃能力の保有が公然と語られています。防衛予算の GNP2%への倍増、武器輸出の解禁、軍事研究の推進、など「軍事の全面化」が始まっています。年末の安保三文書の改訂で、日本の防衛政策の基本である『専守防衛』の原則が変えられようとしています。その先には当然憲法９条の改正があります。国会は衆参ともに、改憲派が議席の 2/3 以上を占め、平和憲法擁護の運動はかってない厳しい局面を迎えています。私たちはどんな対抗運動を作ったらいいでしょうか。来年度に向けて皆さんと一緒に考えていきたいです。

（文責　三好康昭）

9/23 国葬反対集会
西方 満さんのスピーチ

私は昨年の 9 月にさいたま市から伊豆高原に引っ越してきました。この海と山の地で晴れたら畑仕事と庭いじり、雨の日は読書と映画ざんまい、文字通りの日和見を決め込み、のんびりと余生を過ごそうと考えていました。

1 (ところがロシアのウクライナ侵略)が始まり、プーチンが核兵器使用をほのめかし世界を脅しています。また中国の覇権主義も強まっています。こうした危機に乗じて自民・公明が維新の会を巻き込んで憲法改悪と九条を無きものとする策略が強まっています。岸田首相は破綻した核抑止論にしがみつき軍事費の倍増と敵基地攻撃にまで踏み込んでいます。おどろくべきことに自民党の改憲案が統一教会・勝共連合の改憲案とそっくりなことです。私は晴耕雨読どころではなくなりました。亡き父の言葉の「日和見はだめだ」を思い出しました。

2 (自民公明の悪い政治を先導してきたのが安倍晋三)という保守の矜持も哲学もない政治屋でした。彼はプーチンに政治姿勢を見透かされ北方領土返還交渉を開始前より後退させられました。トランプには足元を見抜かれ兵器の爆買いと沖縄基地の固定化拡充を押し付けられました。アホノミクスと揶揄された経済政策と消費税増税で大企業に莫大な利益と減税を与え、国民には格差と生活苦を押し付けました。東京オリンピック招致でのアンダーコントロール発言、森友事件、加計問題、桜見物、詐欺とウソのオンパレードで政治を私物化した人物でした。ある精神科の医者が「批判精神と適度な怒り」は長生きには欠かせない、と言いました。**皆さん、適度に怒り長生きしましょう。**

3 (今年は終戦から七十七年)です。奇しくも明治維新から太平洋戦争までが七十七年でした。この七十七年は日本のアジア侵略の歴史でもあります。ロシアのウクライナ侵略はかっての日本の中国侵略のやり口とそっくりです。あるジャーナリストが言いました、「戦争の最初の犠牲者は真実である」と。私たちは真実と正義と平和をめぐる戦いの真っ只中にいます。**皆さん、私たちが真実の声を高く上げ続けましょう。**

4 (自公政権は閣議決定)をやたらに連発します。アベ国葬に見られるように、その多くは憲法と国会を蔑ろにし、国民を苦しめ馬鹿にしたものばかりです。自公政権は根っこが腐っています。いくら大木に見えても根腐れはいずれ倒れます。しかし待ってはいられません。このままでは国民に危険と不幸が続くのです。私の父は明治 38 年生まれで、戦争反対を掲げ徴兵を拒否し特高に追われ北海道で敗戦を迎えました。皆さんや皆さんのなかに権力に屈しない、時代の先が読める信念の人がたくさんいます。こうした人々の知恵と力を集めて、主権在民を取り戻し、アメリカの属国から抜け出し、本当に独立した日本を勝ち取り平和と文化的な社会を目指しましょう。子や孫が正義の政治を手にする時代が必ず来ると私は確信しています。**皆さん、沖縄の仲間のように共に戦い続けましょう。**

ありがとうございました。

9/27 国葬当日
抗議のスタンディング

市民病院のパワハラと闘う

石山唯子　伊東市民病院のこと

私は、伊東市民病院で 15 年近く内科医として勤務してきましたが、2020 年３月、突然、病院への出入り禁止、医療行為禁止を命じられました。その理由が「カルテ改ざん」だったらしい。「らしい」というのは、私は 2020 年 6 月 4 日の病院のウェブページと翌日のマスコミの記事を見て、初めて、病院側のやっていることを知ったからです。保健所が緊急立ち入り検査をした事実も一切知りませんでした。何一つ説明を受けないまま、気が付いたら「カルテ改ざんした医師」として医師生命を奪われる事態となっていました。

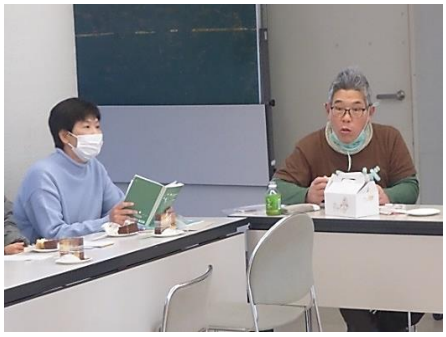
伊東市民病院ではパワハラが横行し、私は、2018 年 11 月、伊東市から病院の指定管理者に指定されている公益社団法人地域医療振興協会を相手に裁判(調停)を起こしました。病院トップ(管理者、病院長)のパワハラを訴え、2020 年 2 月 5 日、和解に応じました。パワハラのない職場でやっと仕事ができると思った矢先、2020 年３月２３日、私がパワハラを訴えた相手(管理者、病院長)に病院から追い出されただけでなく、カルテ改ざん医師という濡れ衣まで着せられました。

私は、振興協会と前管理者に対し、職場復帰と名誉回復を求め 2 度目の裁判を起こしました。裁判は長期化し、職場復帰を諦めざるを得ませんでした。9 月 7 日、振興協会と和解し、ウェブページに載せられた内容が撤回されましたので、「カルテ改ざん医師」という汚名は晴らせたのではないか、と思っています。

この間、患者さん、その家族、市民団体の皆様が根気よく私を支えてくれました。私の無念さ、悔しさに共感し、その後の記者会見まで、ずっと力なってくれました。支援者の方には感謝しかありません。

浦島浩司　市民病院と市民活動

まさか教員を定年退職後に、市民運動に関わるとは思いませんでした。たまたま私の主治医で、たまたま近所の市民活動家が私の家を訪ね『市民病院のＩ医師が突然市民病院を追い出されました。彼女を支える運動をおこさなければと思っています。どなたか石山医師に関わりのある人はいませんか。』その問いかけに妻は『私の主人は石山先生の患者です！』そこからすべてが始まりました。会の名前は、より多くの市民を巻き込むために、地元メディアの強烈な記事‘‘市民病院に不適切医師がいる！！”が圧倒的な力をもって市内中に広がったことに対抗するためには、「石山医師を守る会」ではなく、「伊東市民病院の今と明日を考える会」の方がよいと考えました。市民病院が市民に寄り添う病院になる、石山医師の復職を求めることを内容とする署名活動をはじめました。署名



活動では次の声が聞こえてきました。

・市民病院で一体何が起きたのですか？？
・問題医師のために署名はできません！
・市民病院はだめ、頼りにならないよ！
・署名したいけど、できません。

市長に届けることができたのは１２８６筆です。市民病院に関わるアンケートを実施し、その結果を市長や市民病院に届け、病院管理者らと意見交換の場を持つこともできました。市会議員に手紙を送り、石山医師の話を直接聞いてほしいという訴えに、１２名の市会議員が応えてくれました。

９月７日、地域医療振興協会と石山医師との裁判は和解となりました。和解できたことは、相手方も多少の非を認めたということで、前進であり、一つのゴールと考えたいです。石山先生も事務局のメンバーもすっきりはしていません。多くのメディアが裁判和解の記者会見に参加し、記事として掲載もしてくれました。『女性医師と和解！』『カルテ削除撤回』『不適切医師の内容を撤回する』一つのゴールだと思います。会の活動はいったん休止します。事務局メンバーや患者・家族の皆様とは、不定期ですが石山先生を囲む会を開催しながら、彼女を支えたいと考えています。必要を感じたらすぐに会の活動を再開します。

今は議会に注目したいです。市民病院の会の活動や市民の多くの声を受け、複数の議員が市議会で市民病院に関わる質疑を行っています。１２月議会も注目したいです。それら議員の活動に連動しながら、病院問題に注目していきたいと考えています。今までたくさんの方に支えていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

左は、萩原弁護士

１１月のスタンディング 19日行動

小春日和となった１１月の１９日行動は、土曜日ともあって市職労からも保育士さんなど９名も含め２５名が参加して行われました。

最初は主催団体である市職労の齊藤委員長。「軍事費倍増を叫ぶよりも労働者の賃金を上げて社会保障を拡充し国民の命とくらしを守るべき、そのためにも秋季年末闘争を全力でたたかう」との決意表明から始まりました。

伊豆高原の田中さんは、「平和の旗を守ろうよ！憲法九条守ろうよ！」と美声を響かせ歌で盛り上げ、大原町の豊田さんは統一協会との癒着や政治とカネの問題をみても今の岸田政権は末期、国民本位の政治を取り戻そうと呼びかけました。続いて２年以上にわたる労働争議を闘い抜いた松本元延さんは、「物価の高騰は多くの非正規労働者を苦しめており最低賃金が３１円上がったがとても生活出来ない、何としても時給１５００円以上を実現しよう」と訴え、平和委員会の持田さんは、「今こそ平和を愛する仲間で軍事費の大増額に一致して反対し、日本が核兵器禁止条約を批准するよう世論を盛り上げよう」と訴えました。年金者組合の川合さんは、「値上げラッシュが年

金生活者を直撃しているうえに年金も切り下げられ深刻、安心して高齢生活を送れる年金制度が必要だ」と主張し、新婦人の大川さんは、世界の中でジェンダーギャップ指数が１１６番目という低さの日本を告発し、創立６０年を迎えた新婦人をさらに大きくしながら真の男女平等を勝ち取っていきたいと語りました。市会議員の佐藤龍彦さんからは、この日午後の催しとして映画「百年と希望」自主上映会を宣伝し、「今年１００年を迎えた共産党の活動を知ってもらうことを通じて社会のいまを考えるきっかけに」と案内しました。

“新顔”の市職労保育園支部の支部長Ｈさんは、毎年取り組んでいる保育予算の増額を求める署名が 6200 筆を超えて集まったことを報告し、保育士の配置基準が低いことなど厳しい保育環境を変えたい、未来の子どものためにも憲法九条は守るべきと力強く発言されました。最後は市民アクションの三好さん。岸田政権はこれまでの専守防衛の基本政策をかなぐり捨てアメリカから先制攻撃を目的とするミサイル「トマホーク」の導入を検討している、武器を持たないとしてきた九条をなくし大軍拡を進める動きにストップをかけようと訴えました。

最後にコールを唱和し、多彩な運動分野の方々からの力強い決意と連帯の発言に呼応する形で締めくくりました。　（文責　梶野和之）

藤倉孝純さんから、以下の写真と手紙をいただきました。（三好）

ウクライナ支援のため
Stop Putin、Stop the War
のゼッケンを胸につけて、
買い物等に出ています。
この短いスローガンが国中に
世界中に拡がることを願って
おります。